

## 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年 9月17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2873001487		
法人名	社会福祉法人 きらくえん		
事業所名	グループホーム いなの家		
所在地	兵庫県尼崎市食満2丁目22番1号 (電話) 06-6493-8840		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成20年8月27日	評価確定日	平成20年9月16日

## 【情報提供票より】(平成20年 8月 1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成13年 4月20日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 11人, 非常勤 6人, 常勤換算	14.4人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての 1 ~ 2 階部分		

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	4,500 円	
敷金	有( 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 2,500,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	600 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,600 円			

## (4) 利用者の概要( 8月 1日現在 )

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名	
要介護 1	1	要介護 2	3			
要介護 3	6	要介護 4	7			
要介護 5	1	要支援 2	0			
年齢	平均	82.1 歳	最低	62 歳	最高	96 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	尼崎医療生協病院、戸ノ内歯科診療所
---------	-------------------

## 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

介護老人福祉施設「けま喜楽苑」に併設しているグループホーム「いなの家」は、尼崎市の北東部に位置し、閑静な住宅地の中にある町屋をイメージした細い路地を通る玄関までの造りからもうかがえる日本建築の建物である。1階と2階にそれぞれ9名が暮らし、ノーマライゼーションの実現という理念が浸透している職員に支えられている。居室は馴染みのある家具などで個性豊かな部屋になっている。中庭を囲むように食堂、居間が配置され、縁側からは外の景色が眺められて、落ち着く住まいである。1階のスタッフルームは開放されており、利用者用のベンチやソファが置かれ、当日も違和感なくくつろがれる利用者がおられた。そのスタッフルームの一角に家族との信頼関係に裏付けられた個々の家族との連絡ボックスが置かれ、訪問しやすい環境となっている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4) 地域交流では、職員と利用者が一緒に周辺道路の清掃活動を始めた。又、各種勉強会を地域の方も招いて実施しており、児童の登下校の見守りと挨拶運動も計画されている。防災対策では、マニュアルの見直しと利用者の重度化に伴う避難経路の実地訓練を行うなど具体的な取り組みがされている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4) 自己評価は、全職員で全項目について行っており、ユニットリーダー、部長、管理者と順次確認しながら行われていた。取り組みの中からケアのあり方の確認がされるなど、職員の気づきに繋がったり、サービスの質の向上の機会となっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6) 2ヶ月に1回開催されており、利用者、家族、民生委員、地域包括支援センター職員、ホーム職員がメンバーとして参加されている。パワーポイントで、ホームの暮らしぶり、民生委員や協力委員向けの勉強会の企画、ボランティアの募集、介護保険や医療制度についてなど幅広く話し合われている。出席者の意見から手芸ボランティアの来訪が実現できたり、自己評価や外部評価についても公開され、サービスの質の向上の機会にも繋がっている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8) 利用者や家族の心理も考え、場所も考慮して意見箱の設置もされ、外部者からの意見を聴く機会としている。家族会は世話役を中心に2ヶ月に1回開催され、家族は誰でも参加できる。全家族の集まりも年に数回行われて、意見を聴く機会としている。入居者の誕生日に家族が訪問してホームの台所でケーキ作りをされるなど、日頃から相互の意見の言いやすい雰囲気であり、又、退去後もボランティアで訪問される方もあるなど長く信頼関係が築かれている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3) 地域の夏祭りで屋台を出店したり、クリスマス会を通じて保育園児との交流を行ったりしている。又、ホームの行事に地域の方を招いたり、地域の行事に参加するなど相互の交流が行われている。今年は、職員と利用者が一緒に行う周辺道路の清掃活動を始めた。そして、地域住民向けの施設見学や認知症の勉強会等を一緒に行い、地域の一員としての暮らしに近づけるための積極的な取り組みがうかがえる。

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念を更に掘り下げて事業所独自の言葉に換えて、だれにでもわかりやすいものにされている。全職員に浸透していて、いろいろな場面でその理念が活かされている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者はじめ全職員は、この理念の意味を理解して共有しており、日々の暮らしやケアにも活かされて、日々の利用者との暮らしの中で、毎月の会議の中で、職員採用時、そして研修時などにその都度取り上げて話し合いをしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の中で、自治会や老人会への入会はないものの、事業所独自の行事や勉強会をはじめいろいろな、地元の人々とのふれあう場を作っており、お互いの意見交換や交流する機会を積極的に作るよう取り組んでいる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、全職員で全項目について話し合い、その意義を理解している。また、前回の評価結果を踏まえ、課題をあげて、地域とのふれあいや、防災対策など具体的な改善に取り組んで成果をあげている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>毎年2ヶ月に1回開催されており、ホームの中の様子から、高齢者を取り巻く社会問題まで幅広く取り上げて話し合いをされて、そこでの意見や提案がサービス向上に活かされている。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当者とは、利用者のケアから入居に関わるあらゆることで相互に連絡を日頃から取る機会があり、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>日々の暮らしの中での場面を写真に撮ったものや、生活の中でのエピソードなどを個々にまとめたものを季節ごとに郵送している。また、毎月、ホームからのお便りを発行している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族等の来訪時は、それぞれに近況を知らせたりするが、直接言いにくいことなどを、気兼ねなく言える機会をつくるため、事業所のすぐ前の施設の中に意見箱を設置して、家族へもそのことを伝えている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は、最小限にして、影響を防ぐために、個々の利用者のあらゆる情報を全員で共有することや、「かみユニット」と「しもユニット」の職員の少人数での交代を少しずつ行うことで、幅広い対応を可能にしている。引継ぎ等も十分な期間をもって行い、利用者へは状況に応じて知らせている。</p>		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、法人と協力して、内外の研修計画を立て、採用時の新人研修から、経験者、リーダー研修、そして心のケア研修まで、幅広く実施している。非常勤の職員にもそれぞれに応じた確実な研修のシステムがある。又、業務を通しての勉強会や研修も行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会に参加することで、同業者との交流や意見交換ができて、今年には交換研修会を実施して、大きな収穫を得た。その交流等を通じての職員の体験は貴重なもので、サービスの質向上へ繋げていく取り組みも始めている。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の待機者の方にも事前にいろいろな行事への参加を案内している。入居前の家庭訪問と、利用者の状況により、家族に泊ってもらったり、何度か通われたり、入居後外泊をされたりと、それぞれの家族等と相談し、利用者の様子を見ながら馴染めるように支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	ノーマライゼーションの理念が職員一人ひとりに浸透しており、個々の利用者を大切にすると同時にその人らしい暮らしができるよう、共に自然な状態で寄り添ったり、一緒に過ごすことを大切にしている。利用者からは、しきたりや風習、行事、料理や裁縫を学ぶことも多く、それを楽しんで行っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時には、本人はじめご家族から、昔の仕事や趣味、楽しみごと、好き嫌いなど多方面にわたる話を伺っている。毎日の生活の中で、よりその思いを汲み取るために、ちょっとした表情の変化や生活の様子の違いを見逃さずに、本人の意向を把握する取り組みを続けている。</p>		<p>利用者が自分の思いをうまく伝えられない場合、生活歴や今までの情報をもとに、本人の希望に添うように対応しているが、さらに、よりその思いや意向を把握するために全職員で取り組んでほしい。</p>
<b>2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者の希望や家族の思いなど、その人らしい暮らしを続けていくために、ホームの職員はもとより、かかりつけ医や家族との話し合いも重ねて、個々のより良い暮らしを全員で支援するために介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者の心身の状況に大きな変化があった場合には、担当職員や関係者を含めて利用者の現状を十分に確認し、ケアカンファレンスで検討して、介護計画の必要な見直しを行っている。家族への連絡や相談も必要に応じてその都度行っている。</p>		
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>退去後・入院中の空室をショートステイとして活用している。また、家族の付き添いが急な事情で出来なくなった場合等には、職員が付き添い受診することもある。家族の状況が変化した場合等にも職員が出来る対応や、その他のサービスや情報の提供も随時行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>個々の利用者の今までの馴染みの主治医を基本に対応している。各診療科目の専門医の受診や、緊急時にも対応が出来る体制と、看護師が常勤で配置されているので安心感がある。また、近隣の入院設備のある医療機関との連携にも努めている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合や、終末期のケア等について、事業所として『看取りの指針』を作成し、入居時に家族への説明を行っている。かかりつけ医にも同席してもらい、具体的な内容を確認し、文書で共有している。家族にも良い機会として、本人が同席することもある。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人ひとりのプライバシーの確保について、事業所として会議や研修の中で全職員に対して話をする時間を作っている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>事業所の業務の都合などを優先せず、個々の利用者の日々の暮らしを大切にして、希望を聞いたりして支援している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食は、個々の時間に合わせて準備している。メニューもご飯やパン食など好みに応じて対応している。献立は、毎月のごちそう会議をもとに栄養士が立案し、昼食と夕食は、クックチルを基本に必要なに応じて手づくりの品を添えている。月に2回は、献立、買物、調理すべてを利用者と共に行う取り組みをされている。		利用者の状況に応じて楽しく食事ができる工夫をされているが、昼食と夕食については個々の身体面、精神面でのケアを優先する方針のもと、調理済みの副食を使用している。今後も、今の取り組みに加えて、食事に関わる活動を一日の大切な個々の力を活かす場としてできることを続けてほしい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	事業所としての取り決めは何もしていない。朝から夜の時間帯まで、利用者の希望する日や時間帯に入浴をしてもらっている。自分から希望を言えない利用者には、タイミングや状況を見て声かけし、支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗いものが好きな方や、洗濯物たたみ、毎月の目標を自筆で書かれる方、野菜づくりを教えてもらったり、お花の水やりなどそれぞれに自然な支援をして役割を大切にしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの体調や精神面での状態を把握した上で、個々の希望にできる限り副った外出支援を行っている。毎日行く方、1日何回も散歩する方、時々行く方などそれぞれの生活習慣等も考慮しながら支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの建物や周辺の施設等の配置から、あらゆる工夫がされており、鍵をかけなくても自然に見守りやケアができる環境となっている。管理者及び全職員は、鍵をかけないで利用者の思いを大切にケアの意味を理解されており、全体で取り組んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>所轄の消防署や地域の消防団をはじめ関係者と共に、避難訓練や緊急時連絡対応についても検討を重ねられ、昼間、夜間帯での訓練も実施されている。職員はもちろん、地域の方の参加協力も得て、災害対策が進んでいる。</p>		<p>スプリンクラーの設置については、引き続き検討を続けてほしい。また、今後は水害や地震災害についても、その対応や対策について関係者と共に協力していきたいとの管理者の希望もあり、今後の取り組みにも期待したい。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事の全体的なバランスやメニューは、毎月開催されるごちそう会議で、各事業所からの要望などを含めて栄養士が作成している。必要な利用者については、食事や水分の摂取量を詳細に記録し、関係者との連携をとり、適切に対応している。</p>		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>個々の入居者の状況に応じて、廊下や居間食堂のちょっと座れる場所を創られている。必要に応じて、スクリーンや障子格子戸を利用して適度な間隔で見守りもできて、利用者も落ち着く場所になっている。居室を繋ぐ廊下は、視線を遮ったり、コーナーにソファが置かれたりして、好きな場所でくつろげる。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、それぞれ自宅での暮らしに近い環境にするため、使い慣れたたんすや置物、手づくりの手芸品、そして、仏壇や電話、椅子など思い思いのものが置いてあり、居心地よい部屋になっている。</p>		

 は、重点項目。